

TC-SW

Ver1.0.1

TC02SW Util Ver1.2.x



Timecode Sync for SW

取扱説明書



この説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。その後大切に保存し必要なときにお読みください

安全上のご注意

- ご使用前に、この『安全上のご注意』をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- ここに示した注意事項は、お使いになる人や、他の人への危害、財産への損害を未然に防止するための内容を記載していますので必ずお守り下さい。
- ◆次の表示区分は、表示内容を守らず、誤った使用をした場合に生じる危害や損害の程度を説明しています。

 警告	この表示は、取り扱いを誤った場合、 死亡または重傷などを負う可能性 が想定される内容です
 注意	この表示は、取り扱いを誤った場合、 傷害を負う可能性が想定される場合及び物的損害のみの発生 が想定される内容です

- ◆次の絵表示の区分はお守りいただく内容を示しています。

 禁止	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
 強制	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

 **警告**

- ⊗ **分解、改造をしない**
火災、感電、故障の原因になります。
- ⊗ **金属類を差し込まない**
隙間などから金属類を差し込んだりしないで下さい。火災感電故障の原因になります。
- ⊗ **濡らさない**
水などの液体が入ると発熱、火災、感電、故障の原因になります。
- ❗ **ACコンセントは確実に差し込む**
コンセントの差込が不完全だと発熱、火災、感電の原因になります。
- ❗ **コネクターは確実に差し込む**
コネクターの差込、締め付けが不完全だと発熱、火災、感電の原因になります。
- ⊗ **ACコードを傷つけない**
コードを無理に曲げたり加工したり、引っ張ったり、重い物を乗せたりしないで下さい。
- ❗ **異常が起きたときは**
万一、発煙、異臭、異常音などがあった時は直ちにACコンセントを抜いて販売店にご連絡下さい。そのまま使用すると火災、感電、故障の原因になります。

 **注意**

- ⊗ **煙や湯気が当たる場所に置かない**
火災、感電、故障の原因になります。
- ⊗ **湿気やほこりの多い場所に置かない**
火災、感電、故障の原因になります。
- ⊗ **不安定な場所や振動の多い場所に置かない**
落ちたり、倒れたりするとけが、故障の原因になります。
- ⊗ **ACコンセントから抜くときはプラグをもって抜く**
コードを引っ張るとコードが傷ついて火災、感電、故障の原因になります。

目次

1. 概要	1
2. 設置について	1
3. 動作・設定	1
3-1. 接続	1
3-2. 電源投入	1
3-3. 設定	1
4. PC を繋いでの設定	3
4.1 ドライバーのインストール、設定	3
4.2 編集ソフト	5
5. 仕様	7

1. 概要

本機は、タイムコード（SMPTE、MTC）を受けてオープンコレクタ出力を出します。

- 実行 CUE は 128 個作ることが出来ます。
- タイムコードは SMPTE (30F Drop, NonDrop), MTC を受けることが出来ます
- タイムコード信号が途切れ時に、BACK UP 機能に設定したプログラムを呼び出すことが出来ます。
- WindowsPCを繋ぐ事で設定を行ったり、設定を保存、読み込み出来ます。

2. 設置について

本機の設置にあたっては以下の注意を守って下さい。

- 直射日光の当たる場所、周囲温度・湿度の高い場所、ほこりの多い場所での使用は避けて下さい
- 出力ケーブルは電源ケーブルと一緒にしないで下さい。またマイク等の小レベル信号のケーブルと一緒にするとノイズを与える可能性がありますので、できるだけ避けて下さい。
- ケーブル類の着脱は必ず電源がOFFの状態で行って下さい。
- 電源は定格以内で、変動やノイズの少ない物を使用して下さい。また調光ユニットの出力は絶対に使用しないで下さい。

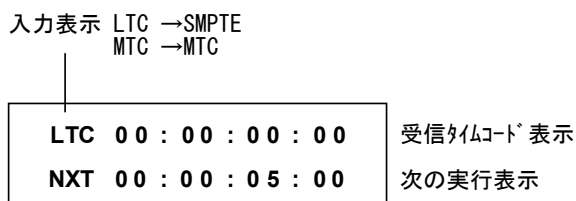
3. 動作・設定

3-1. 接続

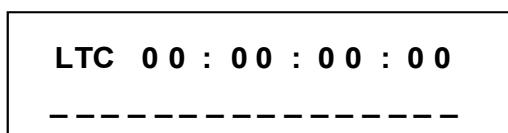
タイムコードを 3P キャンオン（SMPTE）または MIDI ポート（MTC）に接続して下さい。
出力は D-sub25p オスです。コネクタから、本機と受信機器を接続して下さい。

3-2. 電源投入

1. 全ての接続が終了したら、電源を差し込んで下さい。
2. 液晶が表示されタイムコード受信状態になります。



3. ▼ ▲ ボタンで表示が切り替わります。



上段：受信タイムコード表示

下段：接点出力インジケータ（16接点分）
出力している接点は、“*”で表示

3-3. 設定

1. タイムコード入力の切替

MENU ボタンを押します

```
## EDIT MENU ##
INPUT
```

ENTER を押します。

```
## EDIT MENU ##
>INPUT SMPTE █
```

▼ ▲ で **SMPTE** か **MTC** かを表示させて **ENTER** を押します。

```
## EDIT MENU ##
>INPUT MTC █
```

注：入力切替を行った後は一旦電源を入れ直して下さい。

```
LTC 00:00:00:00
NXT 00:00:05:00
```

実行画面の右上で現在の入力が確認出来ます

LTC : **SMPTE**

MTC : **MIDI TIME CODE**

編集中に **MENU** ボタンを押すといつでも実行画面に戻ります

4. PCを繋いでの設定

本機は、USB 端子を使って WindowsPC から設定を行い、設定を保存、読み込むことができます。

4.1 ドライバーのインストール、設定

4.1.1 ドライバのインストール

製品に付属している USB メモリーを、PC に接続し、メモリーの中にある **driver** フォルダから **CDM v2.0XXX WHQL Certified .exe** (XXX 部分はバージョンによって数字が入ります) をダブルクリックして、実行してください。

実行すると、ウィンドウが開き、自動的にインストールが行われます。
インストール終了後にデバイスマネージャーで、**COM** ポートの確認を行い、製品と PC を接続してください。

※ドライバーのインストールは、製品を接続して、ソフトウェアを立ち上げる前に行ってください。

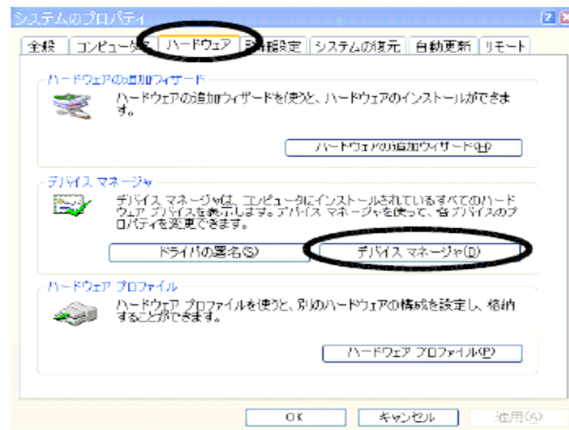
4.1.2 COMポートの確認

ドライバーのインストールが終了したら、COMポートの設定を下記のように行ってください。

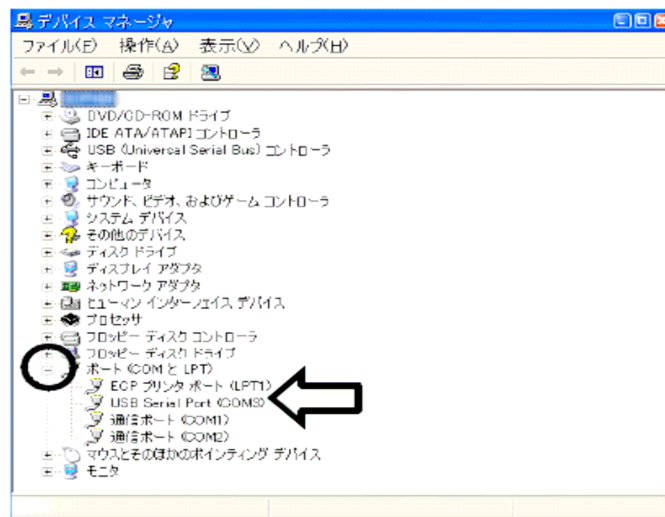
COMポート番号の確認

仮想COMポートドライバーをインストール後、COMポートとして何番が割り当てられたのかを確認します。このCOMポートの値は変更することもできます。確認は、Windowsの「デバイスマネージャ」を利用します。「デバイスマネージャ」の起動方法はWindows98及びMEと、Windows2000及びXPとは異なっています。

- 1 テスクトップの「マイコンピュータ」の上で右クリックします。メニューから「プロパティ」をクリックします。
- 2 「ハードウェア」タブに移動し、「デバイスマネージャ」ボタンを押します。デバイスマネージャが表示されます。



- 3 「デバイスマネージャ」の一覧から、「ポート(COMとLPT1)」をダブルクリックして内容を開きます。



「+」印が「-」印になりポートの一覧が表示されます。

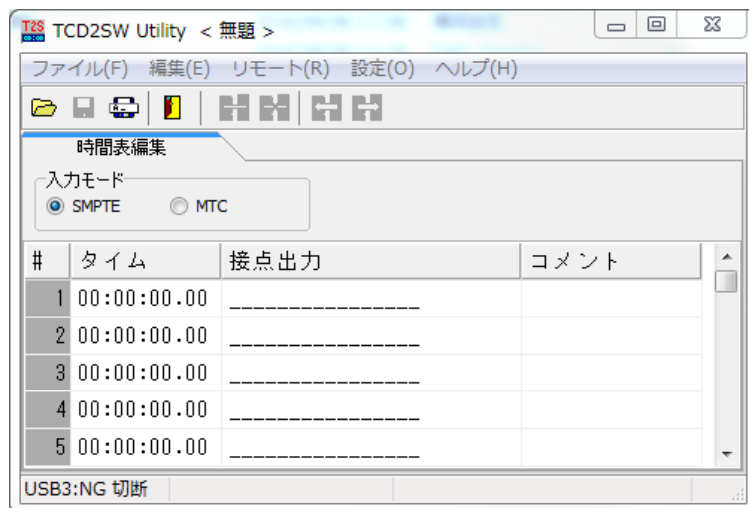
この一覧で、「USB Serial Port (COMx)」が、本機に割り当てられたCOMポートです。COM番号を確認してください。右クリックしてプロパティを開くと変更も出来ます。パソコンからは、このCOMポートへアクセスすることで、本機と通信できます。

4.2 編集ソフト

付属 **USB** メモリー内の **TCD2SWUtl** フォルダを、フォルダごと **PC** の適当な場所にコピーしてください。

フォルダ内にある **TCD2SWUtl.exe** を実行すると、ソフトウェアが立ち上がります。

4.2.1 準備



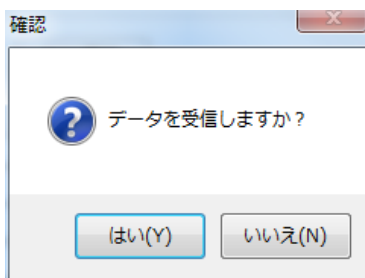
本体と通信する場合は **COM** ポートの設定を行います。



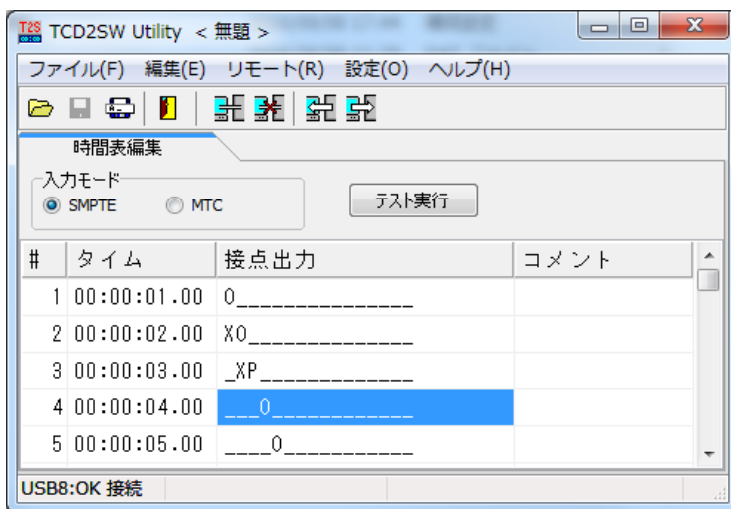
設定 - オプション設定

「4.1.2 COM ポートの確認」で設定した **COM** ポート番号を選択します。

4.2.2 CUEの作成



本体を接続してソフトを起動するとデータ受信画面が開きます。



タイム 00h : 00m : 00s . 00 (フレーム)
タイムは、上記の設定となります。

接点出力のコマンドは、3つあります。

O : 接点出力”オン”

P : 0.5s パルス出力

X : 接点出力”オフ”

最大 **16** のオープンコレクタ出力を
操作できます。

コメントは書き込む事が出来ませんが、
本機に転送したデータにコメントは
ありません。

PC 側に保存したデータにのみ
反映されます。

- ・入力モードにて、受信するタイムコードを **SMPTE**、**MTC** から選択してください。
- ・タイムと接点出力を設定したら最後に「リモート」－「データ転送」で作成したデータを本体に転送して下さい。
- ・CUE は最大 **128** 個、作成することができます。
- ・CEU 作成ページの一番下の項目 (**BAK**)にて、**BACK UP** を設定することができます。**BACK UP** を設定しておく、タイムコード信号が途切れた際に、設定した接点の本機より出力されます。
※ **BACK UP** での”O(オン)”は、信号が復帰して、次の出力が動作した際に、リセットされます。
- ・**テスト実行**ボタンは、本機と接続時にテストしたいステップを選択して、押すと接点出力が出力されます。

5. 仕様

入力 SMPTE コネクター MTC コネクター	ノイトリック XLR タイプ 3P メス (バランス、2 番 HOT) DIN5P
出力 接点出力 (オープンコレクタ出力)	Dsub25P オス 1 - 16 : 出力 1 ~ 16 17 - 20 : GND 21 - 23 : 空き 24 - 25 : DC+5V
電源 定格電力 外形寸法 動作温度、湿度	AC 90 ~ 240V 50 / 60Hz 5W W : 213 H : 41.4 D : 134 (突起部除く) 0°C ~ 50°C、10% ~ 85% (結露無し)

本製品及び本書の内容は予告なしに変更される事がありますのでご了承下さい

(本書製作日2022年2月3日)